

平成 23 年度「特別支援教育総合推進事業（特別支援教育
に関する教育課程の編成等についての実践研究）」報告書

団 体 名	国立大学法人筑波大学
研究開始年度	平成 23 年度

※ 本報告書については、(参考)「特別支援教育総合推進事業実施にあたっての留意点等」を踏まえて作成すること。

I 概要

1 指定校の一覧

設置者	学校種	学校名 (ふりがなを付すこと)
国立大学法人筑波大学	特別支援学校 (肢体不自由)	筑波大学附属桐が丘特別支援学校 <small>つくはたいがく ふせくまり おがきくへつしえん かつこう</small>

2 研究テーマ

学習に遅れがある肢体不自由児に対する国語、算数・数学の指導内容の精選・重点化、指導の工夫に関する研究

3 研究の内容

(研究内容)

国語、算数・数学の指導内容の精選と、各学年等の国語、算数・数学の基礎的・基本的な事項についての指導の重点化、それに基づく具体的な指導を図る。これにより、現状において下学年や下学部の各教科の目標及び内容により編成される教育課程に学ぶ児童生徒を中心に、学習に遅れがある肢体不自由児の学力の着実な向上を図ることをめざす。

指導内容の精選、指導の重点化には、子どもの習得や習熟の程度や到達度に応じ、小・中・高に渡る系統性のある配列を検討することが必要と考える。そこで、対象児の習得や習熟の程度、到達度に基づく指導内容系統一覧表の開発等を見据え、現状では、指導内容の精選と指導の重点化の基本的な方向性を明らかにした。

(評価の観点及び評価方法)

毎日の指導についての評価の積み重ねと分析及び、学力検査等を実施し、児童生徒に下学年や下学部の目標・内容を用いること等により学力が着実に身についているかを評価する。

4 研究成果の概要

対象児の教科の系統性における習得とつまづきを、標準学力検査を用いて小1～在籍学

年まで測定した。また、その結果と学習指導要領の内容に即して行った全国の学力調査等と比較した。これにより、全国の小中学生と対象児の習得とつまずきについて、共通する項目が多いことや、対象児の場合には、つまずきに著しきがあることを確認した。また、肢体不自由児（脳性まひ児）における個々に有する障害特性や学習環境や経験、発達のアンバランス等がもたらすつまずきについても整理した。この知見から、本年度は国語、算数・数学の指導内容の精選と、各学年等の国語、算数・数学の基礎的・基本的な事項についての指導の重点化の方向性をおさえ、指導の評価をより具体的に行うための学力検査の内容設定のあり方を検証することができた。

平成24年度の課題は、おさえた方向性に基づき、国語、算数・数学の内容の具体的な配列と指導内容の精選を設定して実際に重点化した指導を行い、着実に基礎的・基本的な事項を身につけることができているのかを検証することである。あわせて、指導の評価に用いる学力検査の内容と評価方法を検討し、学習に遅れがある肢体不自由児への指導実践のモデル例の構築をめざす。